

WOMEN- 20 Meeting (W20) 報告

(株) ソフィア研究所 大崎麻子

背景

- ・ W20 は、2015 年（議長国：トルコ）に発足。目的は、ジェンダー平等の視点と女性の参画・リーダーシップの促進を G20 のアジェンダ及びすべてのプロセスに主流化していくこと。
- ・ 2016 年の G20 の議長国は中国。9 月 4, 5 日に予定されている G20 サミット（首脳会合）のテーマは “Towards an innovative, invigorated, interconnected and inclusive World Economy”（革新的で、活気のある、相互接続した、包摂的な世界経済に向けて）。W20 では、ジェンダー平等の主流化と女性のエンパワーメントを「世界経済の持続的かつ包摂的な成長のドライバー」として、また、「持続可能な開発の実現（＝SDGs の実現）に不可欠な要素」として位置づけ、「グローバル経済ガバナンスにおけるジェンダー平等」「女性の雇用・起業・社会保障」「デジタル経済における女性の役割」「相互接続し、イノベティブな女性ネットワーク」という 4 つのセッションで、専門家・実務家によるパネル討論が行われた。
- ・ 中国は、昨年 9 月の国連総会で北京行動綱領から 20 周年、また、2030 開発アジェンダの策定というタイミングで、UN Women と「Global Leaders’ Meeting on Gender Equality and Women’s Empowerment: A Commitment to Action」を共催し、UN ウィメンへの資金提供を含む、途上国支援のコミットメントも発表した。W20 のオープニングにおいては、中国側からはこれらのコミットメントに関する言及があった。

主な論点

- ✓ 全会合を通じて、「ジェンダー平等と女性・女の子のエンパワーメントのアジェンダをどのように G20 全体プロセスおよび関連したタスクフォース（雇用、デジタル経済、ユースなど）の議論、また、9 月のサミットでの成果・コミットメントに反映させていくことができるか」という視点から議論が行われた。
- ✓ 2014 年の G20 サミット（ブリスベン）での「2025 年までに労働参加率の男女間ギャップを 25%減らす」という合意事項を実施するにあたっては、単に労働参加率における女性比率の向上を目指すのではなく、「男女間の賃金格差の解消」と「質の高い雇用・職の創出」がセットで議論され、政策策定を行う必要があるという認識が共有された。グローバル化と技術革新の進展による雇用市場の変化とそれに伴う働き方・必要な基礎スキルの変化を踏まえた上で、女性の経済的エンパワーメント及び女の子の教育のあり方を考える必要があるという認識も共有された。
- ✓ G20 はどのようなコミットメントをすべきか？どのような政策を策定すべきか？という点については「適切な公共政策を通じた、女性の無償ケア労働の負担の軽減」「立法府・行政機関・企業の意思決定における女性参加の促進」「デジタル経済における女性のエンパワーメント（教育、起業、インターネットや金融サービスへのアクセスの向上、ネットワーク化等）」「技術革新への女性の参画の促進とそれを可能にするための初等・中等・高等教育における STEM 教育の拡充」「意思決定ポジションや STEM におけるジェンダー・バイアスの解消」が挙げられた。
- ✓ 現状においては、デジタル・エコノミーや技術革新における男女別データやジェンダー分析が少ないので、まずは男女別データを収集し、分析し、その結果を踏まえた上で適切な政策を策定する必要があるという認識が共有された。